

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26463455

研究課題名(和文)高齢者施設ケアの質保証のための看護職と介護職の効果的なIPW

研究課題名(英文) Interprofessional work for quality assurance of care in nursing home

研究代表者

叶谷 由佳 (KANOKA, Yuka)

横浜市立大学・医学部・教授

研究者番号：80313253

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：特別養護老人ホームにおける看護職と介護職の連携を、日本語版Relational Coordination(J-RCS)で調査し関連要因を検討した結果、連携得点の高さは、お互いが協力し合うこと、職員数における看護師割合が高いことと正の相関がみられた。そのため、看護職と介護職との連携を意図的に強化すると共に、看護師が多く勤務できる環境づくりの必要性が示唆された。また、看護職と介護職との連携がとれている施設では、職員配置の工夫や、管理職同士が連携をとりケアの標準化を行っていた。以上より、質の高いケア実施のために、管理職同士が目指す方向性を共有できる仕組みを作ることが重要であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：We examined the current status of co-operation between nurses and care staffs and the relevant factors in nursing homes. The average score of the Japanese version of the Relational Coordination Scale (J-RCS), evaluating co-operation between nurses and care staffs, was 3.5 ± 0.6 . The J-RCS score was positively correlated with those efforts in which nurses and care staffs were more engaged with each other. There was a positive correlation between the J-RCS score and the ratio of registered nurses in nursing staffs. We recommend that nurses increase their co-operation with care staffs to improve the work environment of nursing homes for both groups. As a result of interview with the managers, nurses and leaders of care staffs in the nursing homes that the J-RCS score were high, it was become clear that the managerial staff co-operates in order to improve of the quality of cares.

研究分野：老年看護学

キーワード：連携 教育

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会の突入、医療機関の入院日数短縮の影響を受け、高齢者施設利用者に必要なケアが複雑化している。高齢者施設利用者のケア実態については様々な調査が行われており(日本老年看護学会, 2010; 社団法人全国国民健康保険診療施設協議会, 2011)、認知症等の病態を踏まえた対応のほか、「経管・経腸栄養の管理」「吸引」「点滴・注射の処置」等、多様な医療行為も必要とされている現状が明らかとなっている(日本看護協会, 2005)。この現状よりモデル事業を経て(株式会社日本能率協会総合研究所, 2010)、2012年4月1日に社会福祉士及び介護福祉士法が一部改正され、介護職により喀痰吸引や経管栄養等の一部の医療行為が実施可能となった。法律改正後に研究者らがA県内の高齢者施設対象に調査した結果、胃ろうの経管栄養は介護老人福祉施設および保健施設で30%以上、口腔の喀痰吸引は介護老人福祉施設で約80%、介護老人保健施設で30%以上の介護職が実施していることが分かった。また、介護職が行った医療行為のアクシデントインシデント発生を尋ねたところ、30%が「あった」と回答した(高橋ら, 2013)。これらより、高齢者施設利用者への複雑化したケア提供の質保証のために看護職と介護職との効果的な連携が必要である。しかし、先行調査で看護職と介護職の連携上の課題があることも指摘されている(山梨県立大学地域研究交流センター, 2009)。

一方、多職種による効果的な連携についての研究では、チーム医療に重要な要素を社会的な観点から見出した研究(細田, 2012)や近年ではInter-professional Work (IPW) という概念で、医療や在宅分野での様々な取り組みについて報告されている。しかし、高齢者施設におけるIPWについての報告はない。IPWとは、「2つ以上の異なる専門職が患者・クライアントとその家族とともにチームとして、彼らのニーズやゴールに向かって協働すること」と定義されている(田村, 2010)。Terivediら(2013)は、地域に住む高齢者に対するIPWの効果に関する論文をレビューし、よいモデルはケア過程の改善や病院、ナースিংホーム利用の削減という結果につながっているものの、効果やコスト効率性についてはエビデンスが不足していることを指摘している。また、Zwarenstein(2009)らは、多職種協働介入についてレビューし、ヘルスケアの過程や結果の改善はみられるものの、介入対象や形態が多様化しており、一般化した重要な要素を見いだすことが困難であることを指摘している。これらより、高齢者施設の看護職と介護職のIPWに関する研究がないこと、またIPWについては、効果的なアウトカムに着目した一般化されたIPWモデルの提示が不足していることが課題と思われる。

2. 研究の目的

本研究では、研究期間内に全国を対象とした質問紙調査によって高齢者施設利用者の身体的特性を踏まえたケア、医療的ケア等の現在、必要とされている複雑化したケアの実態を多面的に把握することと、看護職と介護職の連携状況を明確にすることである。また一次調査結果より看護職と介護職が円滑に連携している施設を選出し、それらの施設の管理者、看護職代表者、介護職代表者対象にインタビューにより、組織特性や看護職と介護職との連携のための方針や取組、教育体制や質保証のために実施していること等を調査する。それらの結果から一般化を試み、組織特性と合わせて効果的なIPWモデルを提供することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 1次調査(平成27年度: 全国の特別養護老人ホーム(特養)への質問紙調査)

1) 研究対象者

全国の特養(1,000施設)に勤務する看護職と介護職の代表者各1名ずつ、計2,000名とした。

2) 調査方法

福祉保健医療情報WAMNETより全国の約7,000か所の特養のうち、日本老年看護学会(2010)の研究にならぬ、1,000施設を無作為抽出した。

4) 調査項目()内は質問の回答者

施設属性(看護職)

開設年、併設施設、職種人数、入所者の概要等

看護体制(看護職)

看取り体制、夜間の看護体制等

医療依存度の高い入所者等の看護職の対応状況(介護職)

介護職から見て医療依存度の高い入所者に対する看護職による判断や援助が必要だと思われるケースについて、食事、更衣、排泄、入浴、整容、環境整備、内服への看護職の対応を「1: 全く対応していない」から「5: 非常に対応している」の5段階で回答を求めた。

介護職と看護職との連携(介護職)

介護職から見た看護職との連携は日本語版Relational Coordination(J-RCS)を用いて調査した。Relational Coordinationは「特定の職務」を遂行する際の、職務に関連する「特定の相手」とのチームワークを評価できる自記式の尺度であり、「特定の相手」は研究者の研究意図によって設定できるようになっている(HavensDS, VaseyJ, GittelJH, & LinWT(2010); 成瀬ほか, 2014)。使用に際しては開発者とJ-RCSを検証した研究者に許可を得た。

(2) 2次調査(平成28年度: インタビュー調査)

1) 研究対象者

1次調査にて全国の特養から無作為に選

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 1件)

佐々木美幸、土肥真奈、叶谷由佳：特別養護老人ホームにおけるケア実態及び看護職と介護職の連携、第42回日本看護研究学会学術集会、2016年8月、つくば国際会議場(茨城県)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

叶谷 由佳 (KANUYA, Yuka)
横浜市立大学・医学部・教授
研究者番号：80313253

(2) 研究分担者

土肥 真奈 (DOI, Mana)
横浜市立大学・医学部・講師
研究者番号：50721081

柏木 聖代 (KASHIWAGI, Masayo)
横浜市立大学・医学部・教授
研究者番号：80328088

杉本 健太郎 (SUGIMOTO, Kentaro)
横浜市立大学・医学部・助教
研究者番号：80724939

野崎 静代 (NOZAKI, Shizuyo)
横浜市立大学・医学部・助教
研究者番号：90761271

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

佐々木 美幸 (SASAKI, Miyuki)